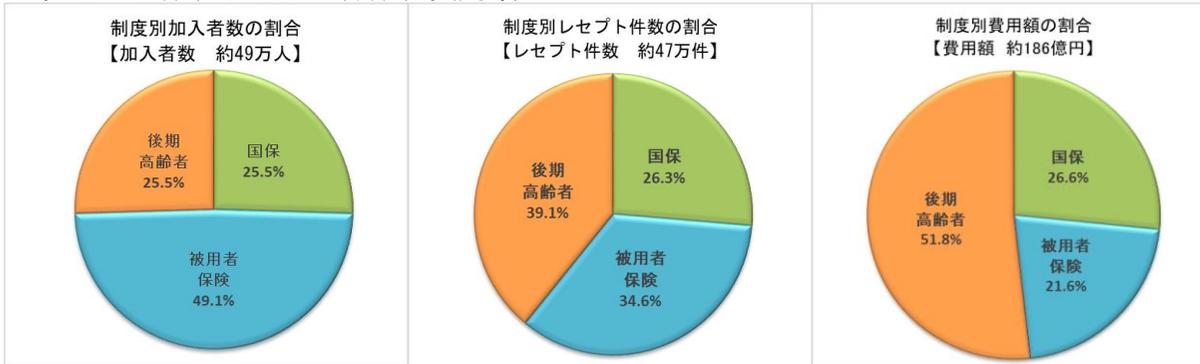


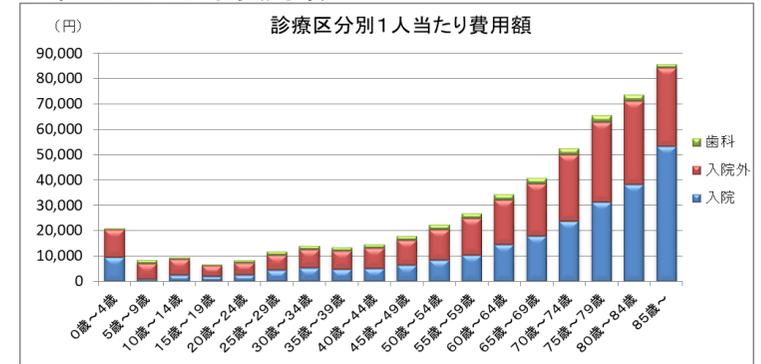
令和4年度 島根県保険者協議会医療費等分析事業報告書【I 医療費分析・概要】

県内19市町村国民健康保険、島根県医師国保組合、全国健康保険協会島根支部、島根県市町村職員共済組合、後期高齢者医療広域連合の令和4年5月診療分レセプトデータを分析しました。

1. 加入者数、レセプト件数、費用額

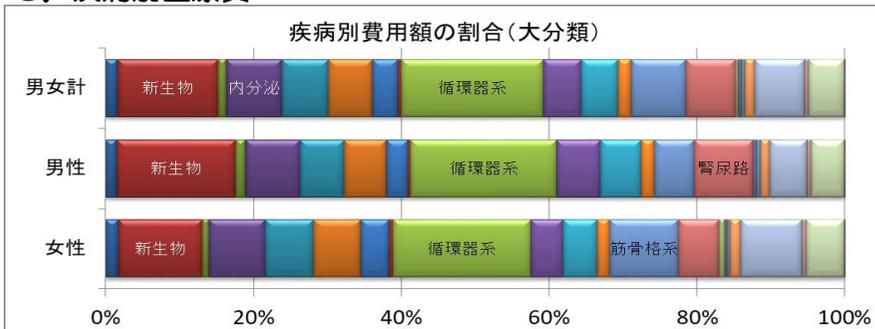


2. 1人当たり費用額



約49万人のデータを分析対象としました。これは島根県の人口の約74%を占めています。レセプト件数は約47万件、費用額の合計は約186億円でした。費用額のうち後期高齢者の占める割合が最も高く、加入者数に占める割合を大きく上回っています。1人当たり費用額は、加齢とともに増加傾向にあります。入院は85歳以上、入院外は80歳～84歳、歯科は75歳～79歳が最も高い状況です。

3. 疾病別医療費



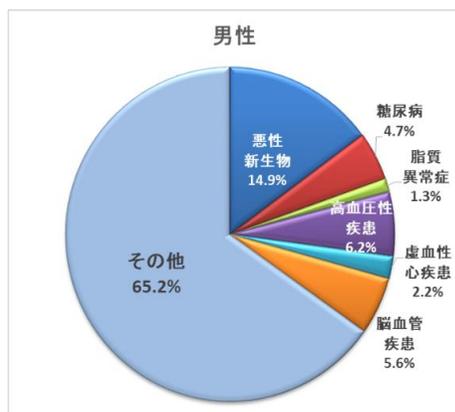
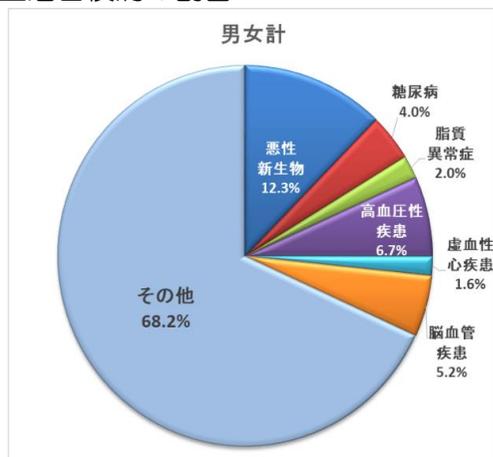
疾病別1人当たり費用額(中分類上位10疾病)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
男女計	高血圧性疾患	他の悪性新生物<腫瘍>	歯科	骨折	他の心疾患	糖尿病	腎不全	脳梗塞	他の消化器系	統合失調症, 妄想性障害
男性	他の悪性新生物<腫瘍>	高血圧性疾患	腎不全	糖尿病	歯科	他の心疾患	脳梗塞	他の消化器系	統合失調症, 妄想性障害	骨折
女性	高血圧性疾患	骨折	歯科	他の心疾患	糖尿病	他の悪性新生物<腫瘍>	脳梗塞	統合失調症, 妄想性障害	腎不全	他の消化器系

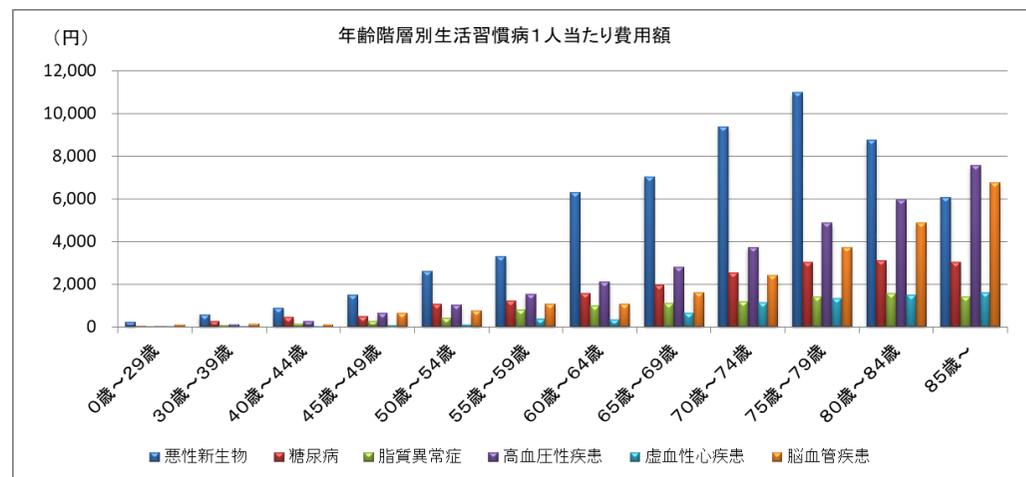
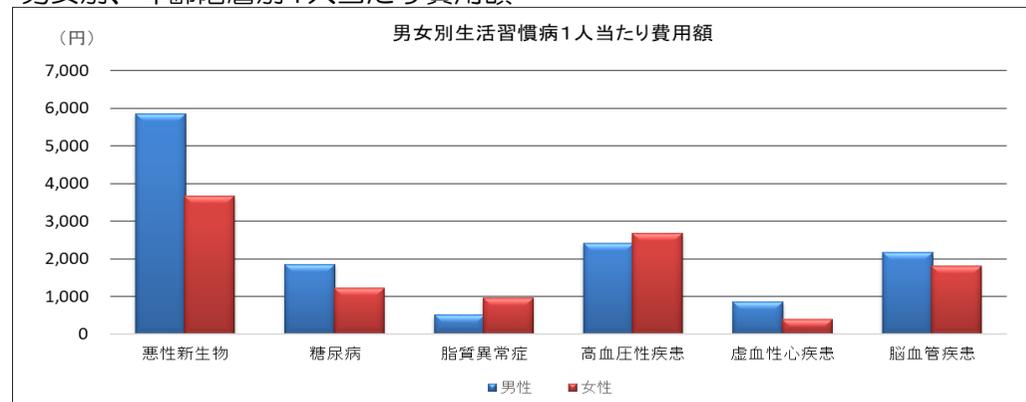
大分類による費用額の割合は、男女ともに「循環器系の疾患」が最も高く、「新生物」が続いています。次いで、男性は「腎尿路生殖器系の疾患」、女性は「筋骨格系・結合組織の疾患」が高い状況です。中分類による1人当たり費用額は、「高血圧性疾患」が最も高い状況です。男女別にみると、男性は「他の悪性新生物」、「高血圧性疾患」、「腎不全」、女性は「高血圧性疾患」、「骨折」、「歯科」が高い状況です。

#### 4. 生活習慣病

##### 費用額に占める生活習慣病の割合



##### 男女別、年齢階層別1人当たり費用額



費用額に占める生活習慣病の割合は、男女計で約32%を占めています。内訳は、「悪性新生物」が最も高く、次いで「高血圧性疾患」です。男女別では、男性は約35%、女性は約29%を生活習慣病が占めており、男女とも「悪性新生物」が最も高くなっています。

1人当たり費用額を男女別に比較すると、「脂質異常症」及び「高血圧性疾患」は女性が高く、その他の疾病については男性が高い状況です。

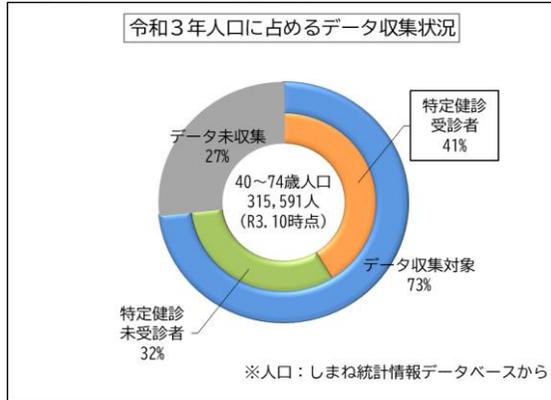
年齢階層別にみると、「悪性新生物」以外の疾病は加齢とともに増加の傾向がみられますが、「悪性新生物」は75歳~79歳までは増加し、以降減少に転じています。

生活習慣病でもある「高血圧性疾患」は、前述のとおり中分類1人当たり費用額が最も高く、脳血管疾患や腎不全も高いことから、高血圧性疾患を含めた生活習慣病の罹患予防及び重症化予防対策が必要と考えられます。

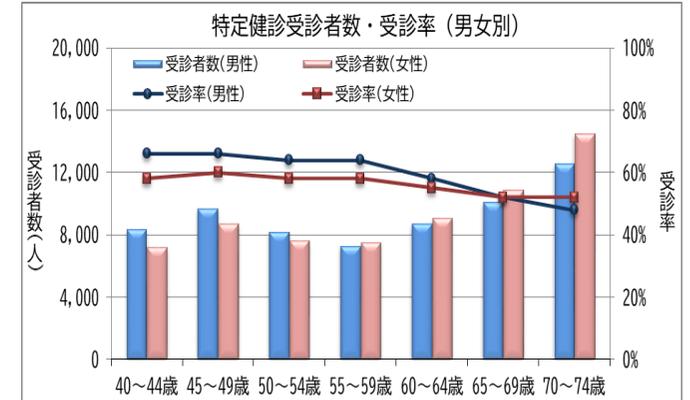
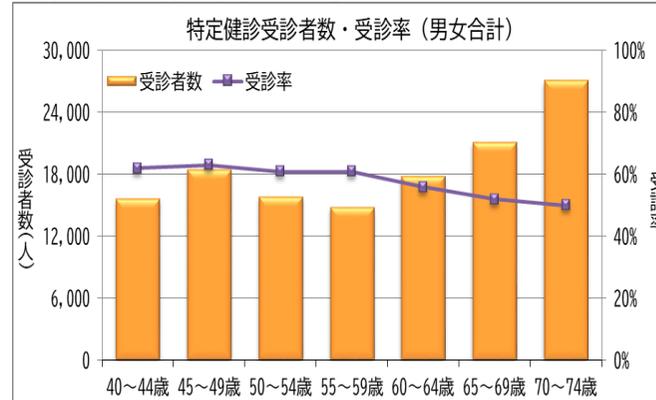
県内19市町村国民健康保険、島根県医師国民健康保険組合、全国健康保険協会島根支部、島根県市町村職員共済組合の令和3年度特定健康診査結果データを分析しました。

分析に有効なデータすべてを対象としているため法定報告値とは異なります。

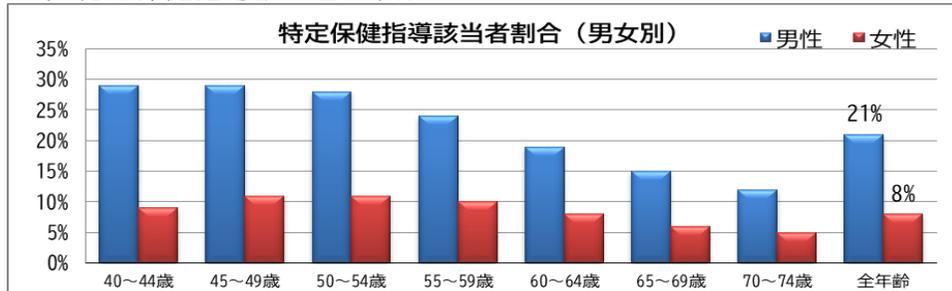
### 1. データの収集状況



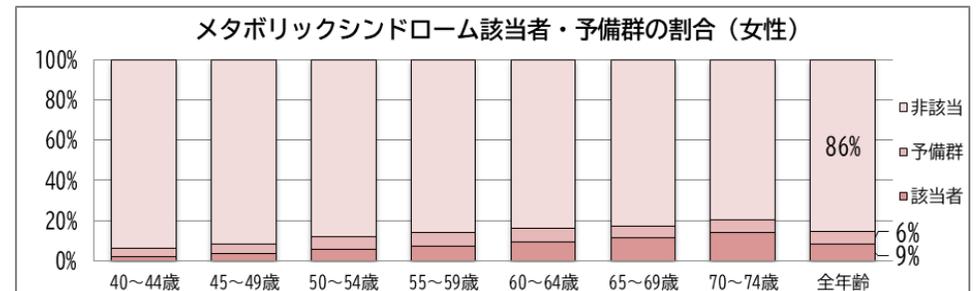
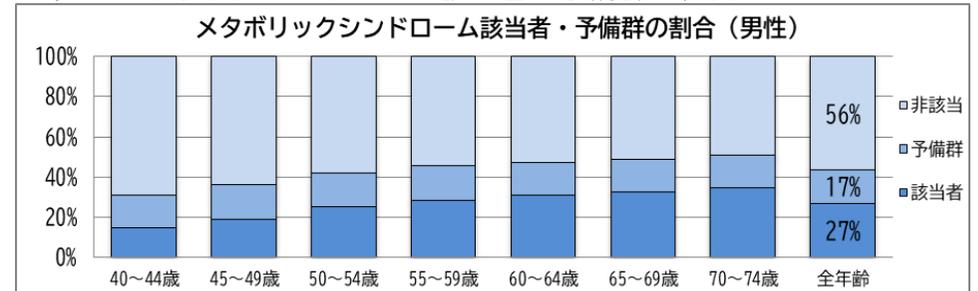
### 2. 特定健診対象者数等



### 3. 特定保健指導該当者の状況



### 4. メタボリックシンドローム該当者・予備群の状況



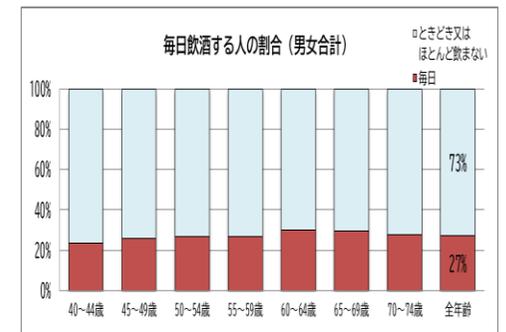
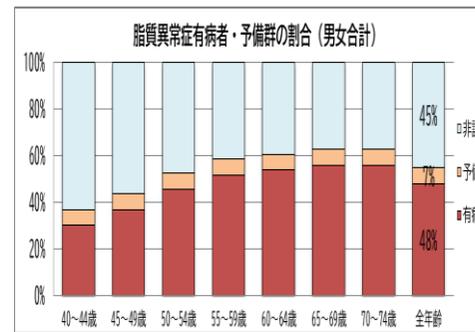
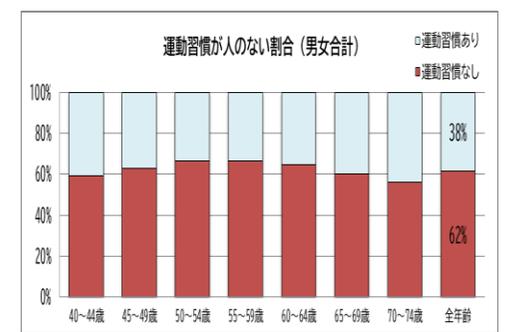
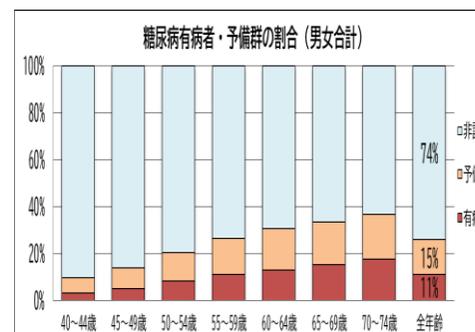
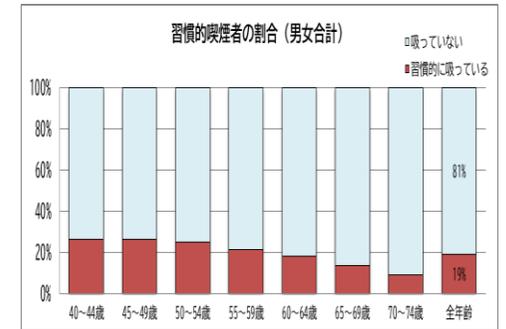
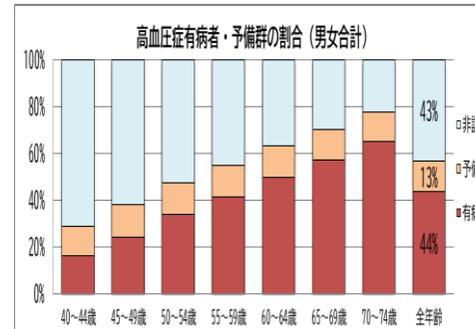
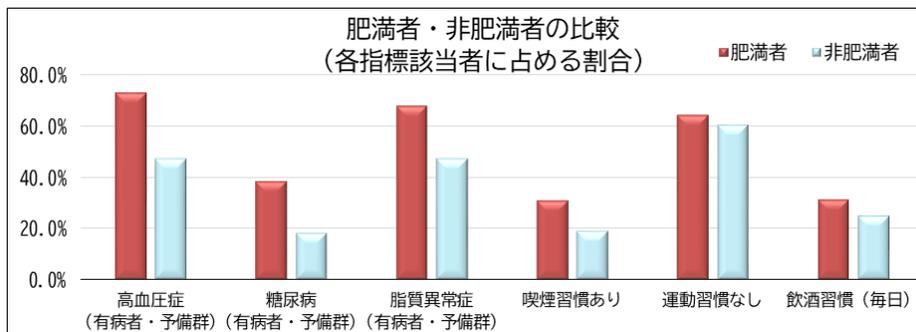
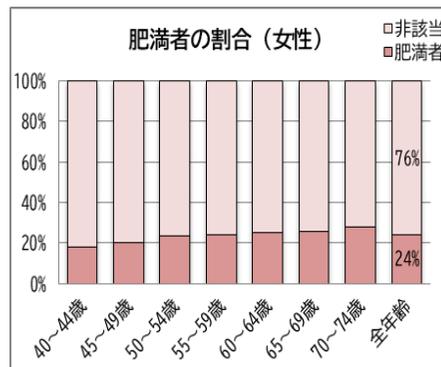
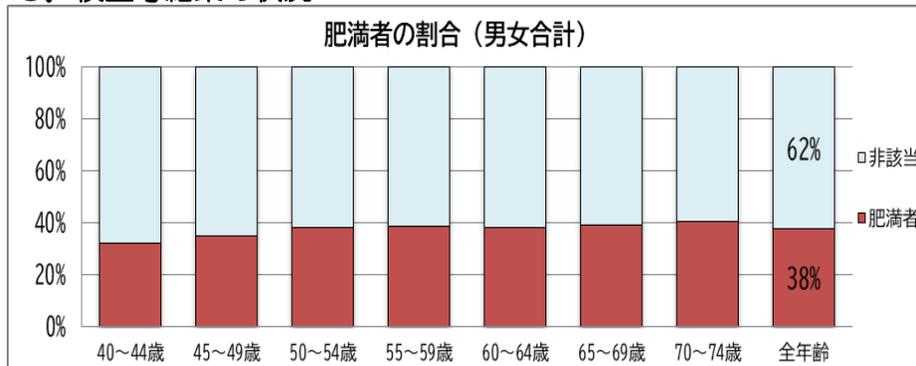
令和3年度は、231,288人の特定健診対象者のうち、130,604人が特定健診を受診しています。

<本分析における受診率>

県全体 56.5% (国保 43.0%、被用者保険 67.7%)

特定保健指導該当者、メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合は、全ての年齢層で男性が女性を大幅に上回っています。

## 5. 検査等結果の状況



健診受診者のうち、38%が肥満に該当しています。男女別では、男性の方が該当割合が高く、約半数が肥満者です。肥満者と非肥満者を比較すると、肥満者は高血圧症、糖尿病、脂質異常症のいずれにおいても該当割合が高くなっています。生活習慣の面においても、喫煙習慣がある、運動習慣がない、飲酒頻度の高い人が多い状況にあります。

生活習慣病のリスクは加齢に伴い増加していきませんが、運動や飲酒等、生活習慣の見直しによるリスク軽減に向けた取り組みが求められます。